

題目	東大寺石垣の心理的評価に関する分析		
氏名	黒松 春樹	(学籍番号 07V060)	指導教員 吉川 耕司

### 1. 研究の目的

奈良県の東大寺は、戦火による2度の全焼を経て、江戸時代(1700年頃)に再建された。その結果、周辺の石垣の見た目が西側と東側では図1に示すように異なるものとなった。東面は再建時に調達した石材を使用した。人通りの多い西面については、権威を示すためにあえて以前の東大寺の石垣を使ったと言われており、そのため見かけ上はバラバラな形状となっている。



図1 西面と東面の石垣の違い

ただし現在では一般にその経緯は知られていない。そこで本研究では、当初の意図通りに現代人がその価値を見だし得るのかを問題意識として、SD法を用いて東面・西面の心理的評価を比較するためのアンケート調査と分析を行った。

### 2. SD法を用いたアンケート調査

アンケート調査は平成22年12月に本学学生を対象に行った。アンケート票は図2にその一部を示すように、心理的な形容詞対を並べ、どちらの形容詞に近いと評価できるかを問う体裁となっている。調査は2回行い、2回目においては歴史的経緯の補足説明を行ったうえで実施している。サンプル数は1回目62、2回目64であり、合計126のサンプルが得られた。

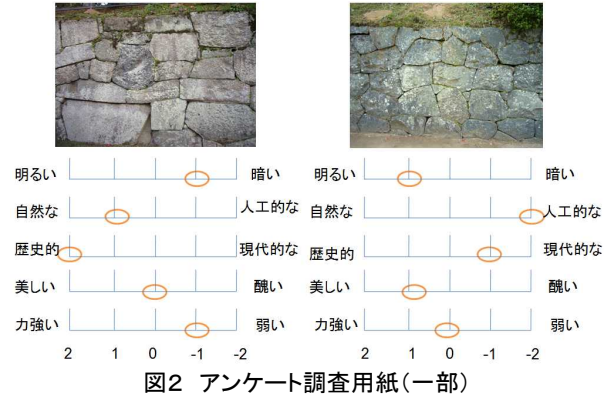


図2 アンケート調査用紙(一部)

### 3. 平均値の相違に関する分析

図3に、補足説明の有無による平均値の違いを示す。補足説明を行った場合の方が評価の違いが大きいことが読み取れる。また紙幅の関係でグラフを省略するが、性別に関しては、女性は西面の方を「明るく」「きれい」と評価し、男性は逆の評価を行っていること等が明らかとなった。

### 4. 評価因子の抽出

形容詞対は22項目にわたるため、評価軸を単純にするため、因子分析を行って、石垣の評価因子を抽出した。表1が抽出された上位3因子の因子負荷量であり、これらの累積寄与率は85.6%となる。これらの因子軸はそれぞれ、第一因子は「美しさ」、第二因子は「没個性」、第三因子は「軽快さ」を表すものと解釈できる。

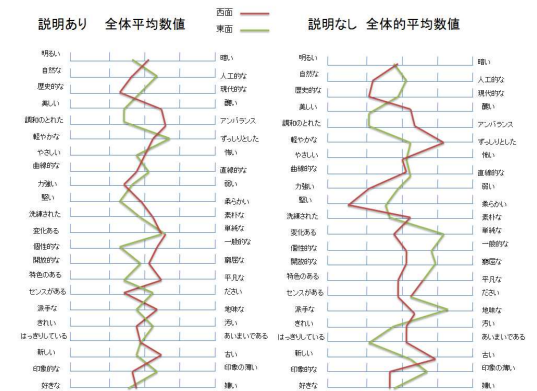


図3 平均値の違い

表1 抽出された因子と因子負荷量

因子	説明あり	説明なし	説明あり	説明なし
第一因子	0.686	0.078	0.023	きれいな
	0.661	-0.065	0.083	センスがある
	0.643	0.29	0.022	美しい
	0.6	0.329	-0.117	はっきりしている
	0.592	0.389	0.058	調和のとれた
	0.59	-0.089	0.116	明るい
	0.577	-0.234	0.111	やさしい
	0.466	0.233	0.263	新しい
	0.41	-0.271	-0.066	好き
	0.311	0.209	-0.214	洗練された
	第二因子	-0.04	-0.779	0.012
-0.17		-0.732	0.095	個性的
-0.117		-0.609	-0.011	変化ある
0.002		-0.583	-0.135	印象的な
-0.218		-0.565	-0.103	自然な
0.245		-0.479	0.11	派手な
-0.056		-0.458	-0.011	きれいな
0.127		-0.451	0.237	開放的な
-0.384		-0.423	-0.324	歴史的
第三因子		0.173	-0.007	0.692
	0.019	-0.202	-0.599	力強い
	-0.004	0.313	-0.518	堅い

### 5. 評価得点の相違による分析

4. で得られた因子に関する各サンプルの因子得点を、西面・東面および補足説明の有無によりマークを分けて、2次元平面上にプロットした。図4に、第一因子と第二因子を組み合わせた例を示す。

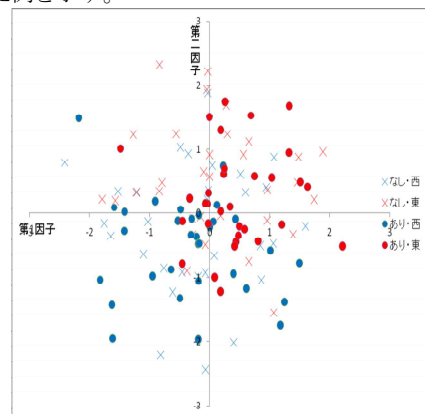


図4 因子得点のプロット

これによると、「補足説明あり」のサンプルにおいて傾向の相違が大きく、東面の石垣について「美しい」が「没個性的」と評価され、西面はその反対の評価がなされていることが読み取れた。

### 6. おわりに

東面と西面の石垣の形状の相違が、その評価にも一定程度影響を与えていることが明らかとなったが、必ずしも当初の意図を判定した結果とはなっていない。

